

令和4年度 第2回静岡市駿河区地域包括支援センター運営部会議事録

1 日 時

令和4年10月19日（水）14時～16時

2 場 所

駿河消防署 4階会議室

3 出席者

（委員）櫻井委員、中村委員、紅林委員、前坂委員、美尾委員、望月委員
（駿河区地域包括支援センター）7包括

4 事務局

駿河福祉事務所高齢介護課 高齢者福祉係
保健福祉長寿局 地域包括ケア推進本部 地域支え合い推進係

5 傍聴者

0人

6 地域包括支援センターの事業計画報告及び意見交換

別紙 各地域包括支援センター事業計画書参照

<<大谷久能地域包括支援センター>>

包括：

まず大谷久能健康福祉フェアについての報告をしたい。大谷久能健康福祉フェアは、平成24年に始まった大谷久能高齢者の暮らしをまもりたい10周年記念と、大谷久能地域包括支援センターの事務所がシーサイド大谷公民館に移転したことの周知を目的に、当初は3月開催を予定していたが、コロナウイルス感染症の関係で10月15日に延期されての実施となった。開催までには、地域包括ケア推進本部、駿河区高齢介護課、南部保健福祉センター、生活支援コーディネーター、民児協、地区社協、圏域の医療介護の事業者らと繰り返し地域ケア会議や実行委員会を重ねてきた。つい先日の土曜日、無事フェアを実施することができ、当日の一般の来場者は200名以上だった。運営を手伝ってくださった方、行政職員、包括職員、地域の専門職、地域のボランティア100名、総勢300名がまもりたいの周知、フレイル、認知症予防を地域に啓発する活動を行うことができた。行政含め地域が一体となってイベントを行えた背景は、平成29年度自宅ですっとミーティングに始まり、平成30年度の認知症高齢者徘徊模擬訓練等を積み重ね、行政と専門職等の連携があった。そこに10年間まもりたいをずっと行ってきた地域住民の福祉力があってこそ、こうしたイベントをスムーズに行うことができた。今後も大谷久能地域において、この地域連携力の強みを維持しながら、まもりたいというわかりやすい福祉活動を中心によりよい大谷久能地区を目指して活動を継続していきたいと考えている。

次に認知症の理解についての取り組みについて、今年度チームオレンジ事業を圏域で引き続き実施しており、健康福祉フェアに認知症サポーターのステップアップ研修として、静岡県の認知症本人大使の方を招いた講演会を実施した。研修に参加したのは、みまもりたい活動で認知症の方とよく接している地区社協の運営ボランティアたちで、今後も地域ケア会議等を開催し、大谷久能地区では認知症になってもS型デイサービスや敬老会等の地域行事に気軽に参加できる、また本人家族だけで抱え込むことなく、認知症をオープンにできる地域を目指していきたい。個別の認知症の地域ケア会議を開催したいと思っているケースはあるが、なかなか家族が地域に支援を求めることへのためらいもあり、開催するまでには至っていない。引き続き個別のケースについて地域ケア会議の働きかけを行っていきたい。

最後に多職種連携への取り組みについてです。健康福祉フェアで圏域内の医療介護の事業所から、理学療法士・作業療法士7名、薬剤師1名、管理栄養士2名、認知症ケア専門士の方多数が参加し、地域住民の認知症予防やフレイルチェックを行った。今後の生活の中でできる介護予防についても相談支援を行っている。今後も引き続きS型デイサービスやシニアクラブ、地域の自主グループへ専門職を派遣し、これは地域リハビリテーション協会推進事業を活用しているが、フレイル予防に沿って講演会等も今後も地域につなげていく予定となっている。今回、台風被害を教訓に、災害時の圏域内の事業者と地域住民の連携等について地域ケア会議で検討していきたい。

美尾委員：

健康福祉フェア等の素晴らしい活動を実施しており、いろいろご苦労もあると思う。定員について、配置基準が3名となっているが、高齢者人口約3000人に対しこれだけの事業をしていて大変ではないかと思う。個々の職員のライフワークバランス等考えたとき、もう少し職員を配置できないものなのか。また、事業については活動を知ることができたが、地域ケア会議の実施について、自立支援プラン型地域ケア会議とケース対応型地域ケア個別会議が0回なので、どのような状況なのか教えてほしい。

包括：

ご指摘の通り人員不足で、職員には苦労をかけている。地域ケア会議、特にプラン検討型は余力が回らない状況で、もう一人職員がいればできるのかなと思う。どこの包括支援センターもそうだと思うが、職員の募集をかけても人が来ない状況である。母体法人でも人員が足りない状態で、解決の目途が立っていない。今いる職員で精一杯やっていくしかない。

<<大里中島地域包括支援センター>>

包括：

1点目に、しずおか焼津信用金庫西脇支店と日ごろから困難ケースで関係があったことから、今年度アウトリーチの手法を模索するというこで、8月15日、10月14

日の年金支給日に、朝9時から9時半くらいを目途に包括職員がATMの外で、高齢者に関わらず、来店者にチラシ配布や声掛けを実施した。どちらの日も30名弱の方にチラシを配布すると、受け取る方が20名ほどだった。8月は1件、他圏域ではあったが介護保険申請につながった。10月14日は日頃銀行が心配している高齢女性が来店し、銀行の要望でそのまま銀行の一室で相談を実施した。相談の結果、多問題ケースであると判断し、担当の大里高松包括に引き継いだ。8月、10月に実施した結果、来客者の顔ぶれがほとんど同じだったため、今年度は少し期間をあけてあと1回ほど実施する予定で、今後は他の金融機関にも協力を得たいと考えている。

2点目として、昨年から主任ケアマネジャーを主として圏域の居宅との連携構築を図っている。今年度は資料に記載の通りのやり方で実施しているが、功を奏している。まず2居宅で組んでもらい、勉強会あるいは会議でやりたいテーマを決め、主催をしてもらう。これがうまく軌道にのり、力がある主任ケアマネジャーたちが中心になるため、非常に動きが早く、テーマの決定といったところで興味のあることを行うため、向上心やレベルアップが見られる。主催をすることで、当日の勉強会や会議は一般のケアマネジャーたちも参加するが、一般のケアマネジャーたちが、主催している主任ケアマネジャーをお手本にし、主任ケアマネジャーたちの中でも、新しい主任ケアマネジャー、ベテランの主任ケアマネジャー間で力の差があるが、互いに良い刺激になっているようで、アンケートの結果でもケアマネジャーたちから勉強になるという意見が多数あり、よく機能したと考えている。7月に民生委員を呼んで会議を実施したが、民生委員からも高い評価をいただいた。9月にはコロナに関し、各居宅でどのような対応をしたか、予防策等をオープンに話をしたことで連帯感がアップした。今年度はあと2回の実施を予定している。

3点目として、住民への認知症の啓発活動について、大里西学区の住民有志の会では、昨年サポーター講座を実施していることからステップアップの一環として、今年度も何かできないかと打診しており、いい感触を得ている。今年度前半コロナ感染が激しく、話し合いが頓挫していたが、先日再度地区に働きかけ、現在実施について審議をしている。その結果次第で今年度1回実施できるかもしれない。また、中島団地で10月16日に敬老会があり、そこで認知症サポーター養成講座を実施した。高齢者当事者とボランティア合わせて45名ほどのなごやかな良い会になった。中島団地の支援をしている代表の方が、「敬老会でただ物を貰いに来るだけではなく、今後について高齢者たちが自分で自分のことを考える機会にしたい。」という強い思いがあり実現した。中島団地は高齢者が多く、様々な問題が出てきているが、今後の足掛かりになるとよい。

4点目として、6月28日に“自宅ですっと”という形式を取って会議を実施した。あるケースをもとにしており、高齢者とその娘たち（何十年と引きこもっている姉妹）がいるが、高齢者の支援は包括で終わっており、現在はそろそろ高齢期に入ってくる

引きこもりの二人の姉妹について、住民たちの見守り体制を築くところまで行っているが、住民たちから今後姉妹も住民たちも年を取っていくことに対し、見守りの継続等の漠然とした心配と今後どうなるのかという疑問が出ており、住民たちを支援する機関はどこかということで会議を開催したが、該当機関が定まらなかったため、今後の地域課題となっている。

望月委員：

銀行との連携によって直接相談に繋がったということで、とてもよい連携が普段からできているのだと思う。その中で接触拒否が8名だったとのことだが、その中に気になるケースはいたのか。

包括：

チラシを配ること自体、何のチラシかもわからないまま「いらないです。」と断る人が多かった。高齢で歩行が不安定な方に声をかけたところ、「私は介護なんかまだ早い。」と拒否する方もいたが、そこまで元気があればよいのかなと考えている。

<<八幡山地域包括支援センター>>

包括：

相談支援業務については、情報共有をきちんとしていくことを念頭に対応している。情報共有をしたうえで対応方法、連絡先、協力体制について必要なところに意見を求める等している。総合相談など包括的ケアマネジメント支援については、自立支援型ケア会議を書面で1回、対面で1回実施した。先月個別対応型地域ケア会議を1回開催し、保健所、障害、高齢分野の行政職員等関係機関が出席した。有明団地では、昨年からは生活支援コーディネーターとともに月1回相談会を実施している。特別大きな相談はないが、事前に民生委員や各棟の方が、支援が必要そうな方に声をかけ、当日連れてきてくれるため、様子を確認している。また、“自宅ですっと”を続けるため、市民講座を活用し健康講座を実施している。先月は清水病院の薬剤師に来てもらい、薬についての話をしてもらった。来月は尿失禁についての話を予定しており、自宅ですっと暮らすために必要な内容で開催している。また地域の方々からの要望で、12月には富士見地区で認知症徘徊高齢者の搜索模擬訓練を実施する予定でいる。フレイル予防として、母体法人・理学療法士と連携し、S型デイサービスとは別に、でん伝体操やちゃきちゃき体操等、定期的に身体機能を評価できるような会を、来年度を目指して調整している最中である。

美尾委員：

事業内容3の圏域内でのフレイル予防について、今後どのように事業を展開し、継続していくのか。

包括：

地域の方と相談しているが、S型デイサービスがない曜日や週に10名ほど集めて、

でん伝体操等を実施できたらと考えている。その際に理学療法士や作業療法士等から生活全般の機能訓練をやりたい。また半年に1回、機械を使いながら、目に見える形で評価ができたらと計画している。地域住民、専門職や関係機関とどれだけ連携ができるかについて、地域の方々と相談しているところである。

紅林委員：

フレイル予防のところで、いろいろな講座開催を計画しているとのことだが、食事也非常に大切な項目であるため、ぜひ栄養士も活用してほしい。

包括：

食事の重要性は認識しているため、今後また協力をお願いしたい。

<<小鹿豊田地域包括支援センター>>

包括：

1つめの地域包括支援センターの周知では、なんとなく包括に行けば相談はできるのかなあと気軽な相談窓口として地域住民に認識してもらっている。それ以外にも包括は担当者会議や新規の方の契約時、民生委員の集まり時に、消費者トラブルや皆さんの権利を守ろうという取り組みで、行政から発信されている“見守り新鮮情報”や、高齢者のトラブル予防見守りガイドブック等を配布し話をしている。認知症予防として、毎月かけこまち七間町がカレンダーを発行しているため、それを地域に渡している。

2つめの介護予防の発信では、住民が集まる場で高齢者に有益な情報の提供や包括の紹介をした。高齢者の反応として、東静岡駅周辺に住む方が、小鹿豊田包括に行くのが遠い、場所がわかりにくいとの声があり、まるけあ静岡の看板を見やすくするなどした。11月にも情報提供の依頼があるため、役に立つ情報をもって参加したいと考えている。

3つめの地域包括ケアシステムの強化では、今年度は多問題を抱える高齢者の支援には、圏域内のケアマネジャーとの連携が必須であるため、圏域内の主任ケアマネジャーに集ってもらい、地域づくりに向けた情報提供の発信やケアマネジャー支援、圏域ケアマネジャー同士のつながりを作る場にしたいと、主任ケアマネジャー連絡会を開催した。今後この連絡会を継続することにより、圏域ケアマネジャーが疲弊しないで支援できるように、また地域の社会資源の開発に発展できるよう、活動を積み重ねられるとよいと考えている。かけこまち七間町のカレンダーを見た方から、七間町は圏域から遠いとの話があったため、包括が地域包括ケア推進本部と相談し、出張かけこまちができるとの情報を得たため、今年度東豊田地区での実施を計画していきたい。事業概要外で精神の相談機関である静岡市支援センターみらいから、小規模の勉強会の相談があり、12月に圏域内の訪問介護事業所を対象として勉強会を計画している。11月にケアマネジャー勉強会でも同様にこころの健康センターの協力を得て勉強

会を開催する予定である。精神疾患がある利用者を支援している方々は疲弊してしまうとの話をよく耳にするため、その疲弊が少しでも軽減できるとよいと考えている。

最後に生活支援コーディネーターとの連携について、前回東豊田地区で移送支援の自主運行カーの運用について、なかなか納車されず滞っていると報告したが、9月26日から自主運行カーが運行開始した。10月13日に運行進捗連絡会に参加し、情報共有を行うことができた。地域から利用者の増員をしてほしいとの要望があったため、今後包括がケアマネジャーへチラシ配布等をするようになった。配布資料のチラシ裏面に運行ルートが掲載されているため、興味ある方はお声がけいただきたい。

前坂委員：

初期認知症集中支援に行く前にかげこまちに相談している状況だが、初期認知症集中支援は手続きが煩雑であるため、かがこまちに相談することで現状の問題はほぼ解決できているという認識でよいか。

包括：

今年度、認知症初期集中支援を利用したケースはない。過去3年ほど前に利用したケースはあるが、現在比較的地域の主治医に相談をしているケースが多く、なかなか繋がらない印象がある。今回チラシ配布したことで興味を持った家族の方もいたため、配布することによって住民の方々が認知症に興味を持っていただけるのではと考えている。

<<大里高松地域包括支援センター>>

包括：

地域ケア会議の実施状況について、自立支援プラン型地域ケア個別会議は2回（対面1回、オンライン1回）開催した。ケース対応型地域ケア個別会議は2回開催し、9060問題で30年以上引きこもりの方へのアプローチを検討した。食事の偏りがあり目が見えない方だったため、往診の眼科医に入ってもらった。継続的ではないが、地域ケア個別会議の際に、往診の眼科医、こころの健康センター精神科医等、多職種で問題解決に向けて関わっている事例となっている。

事業概要1について、主任介護支援専門員連絡会を実施しており、6月29日に業務の効率化に関連して“シズケア*かけはし“についての講義とデモンストレーションを行った。圏域内に17居宅あるが、居宅によってICTが進んでいるところとそうでないところの差があり、課題だと感じた。ケアマネジャー同士が自主的に有志でリハ職との勉強会を開催するなど、横のつながりができていると感じている。来年度に向けて、自主的にみんなでやっていくというところまで持っていきけるよう関わっていきたい。今回の大雨災害があり、防災について勉強をしたいとの声があり、包括でまとめていきたいと考えている。

事業概要2の認知症になっても住み慣れた地域で暮らすことができるよう啓発活動

を行うことについて、南部学区のささえあいたい「み・て・こ」にステップアップ研修を行い、7月26日にチームオレンジが発足した。認知症の方に対する対応を学んだことで、普段のちょっとした見守り活動に認知症の要素も取り入れている。南部学区はとても活動が盛んであるため、毎月1回地区社協の会で報告する場があるため、その際に認知症のPRを実施している。また、南八幡老人クラブと圏域内の高等学校でサポーター養成講座を開催した。コロナのため2年間中止となっていた中田まつりに参加した際には、子ども向けに高齢者疑似体験を実施したり、認知症に関するクイズを掲載したチラシを配布したりした。県営登呂団地では、介護予防教室に合わせて認知症予防等の活動を行った。10月21日に出張かけこまち七間町を南部生涯学習センターで行う。住民、薬剤師、ケアマネジャー、民生委員等いろんな方からの応募があり、PRをしたいと考えている。

事業概要3のワンストップサービスの相談機関として、気軽に相談できる体制を作ることについて、年金支給日に合わせて金融機関で相談会とチラシ配布をしている。コロナ前は調剤薬局で定期的にチラシ配布や相談会を実施していたためその延長となる。ウエルシアのウエルカフェを利用し、出張相談会を予定し開催している。課題として、相談がほとんどなく、チラシ配布をしている状況である。行政書士や総合病院もウエルカフェを利用して相談会を実施しているようなので、来年度はコラボ企画をしながら人を集めたいと考えている。ちらしにメールアドレスを掲載しており、メールでの相談や海外在住の家族とのzoomでの相談も実施している。

事業概要4の多職種連携で、医療と介護と地域住民の連携を図るでは、日常生活自立支援事業に関する研修を、社協の権利擁護係の方を講師に、オンラインで実施した。成年後見制度と自立支援事業の事例について行い、アンケートでも大変好評だった。その際、介護支援専門員だけでなく、サービス事業所やグループホーム、調剤薬局等圏域内のあらゆるところに募集をかけ、様々な職種の方が参加した。県地域リハビリテーション強化推進事業を利用し、地域住民に介護予防と消費者被害の二部制の教室を開催した。包括が寸劇を行い、消費者被害のPRを実施した。それぞれの機関ごとに合わせたチラシを作ってPRしている。

美尾委員：

他の地区もそうだが、地域ケア会議の実施状況で、地域ネットワーク形成等にかかる地域ケア会議は0回となっているが、今後の展開を教えてください。

包括：

圏域内に4地区あるが、1地区でコロナ流行前から“自宅ですつと”を地区社協会長や民生委員からやりたいと声があり、ここ数年計画していた。コロナの関係で頓挫していたが、今年度は2地区で計画しているため、下半期に実施できるとよいと考えている。

櫻井委員：

包括の方から質問や意見はあるか。

包括：

先ほど前坂委員から初期集中支援チームの話が出ており、包括内でも初期集中支援チームへ相談をかけようか迷うことがあるが、書類を整えたり等手続きが煩雑なことから利用に繋がらない。包括としては、相談したらすぐに医療関係者が自宅に来てくれることを求めているが、そこにいくにも初期集中支援チームでは難しい。訪問診療で対応してくれる医師もいるが、お金がない方は利用できないため、認知症がどんどん酷くなってしまう。初期集中支援チームが使いやすいものになってくれるよう期待している。

<<長田地域包括支援センター>>

包括：

当包括は、“孤立しない、させない地域づくり”というテーマで今年度取り組んでいる。まず、事業概要3にある認知症予防支援については、今後地域のニーズに合わせて認知症サポーター養成講座等企画する予定である。特に桃園町UR団地の高齢化や支援困難世帯の顕在化、自治会および民生委員の担い手確保が困難な状況がかなり深刻化しており、生活支援コーディネーターと協働して、地域の状況把握に努めている。今後は地域住民のニーズから優先順位を明確にして、認知症予防の取り組みを進めていく。

事業概要4は第2回まで終了している。参加者からの意見で、今年度特徴的だと考えているのが、コロナ感染症で不活発になった地域活動の影響で、住民と地域との関わりが希薄になっているという点で、一度希薄になってしまうと、なかなか地域と再度繋がりにくいという課題が挙げられている。これについて、次に報告する good at プロジェクトの取り組みによって、地域住民の活動の場がさらに拡大できると考えている。

事業概要1の good at プロジェクトについて報告する。配布資料に、プロジェクトの企画書から抜粋したものがあるが、このプロジェクトは地域で活躍できる人材の発見と確保、および高齢者の生きがいを目的としている。プロジェクトとしては名刺作りを柱として考えている。名刺作りを取り入れようと思った主な理由は、名刺は人と繋がるツールとして活用しやすいこと、企業人として活躍してきた方、特に男性にとっては名刺を所有することで帰属意識を持つことができる点などである。このプロジェクトから期待できることについては、資料をご参照いただきたい。個人が自身の強みに気づき、それをスキルとして地域と繋がっていくということをイメージしている。次にこちらのプロジェクトの進捗状況について報告する。6月に事業概要2にある長田地区関係機関連絡会議でプロジェクトについての紹介をした。そこでは生涯学習センターと老人福祉センターが非常に関心を寄せてくれ、特に生涯学習センターは、今年度地域のリーダー育成に取り組みたいという事業目標を持っていて、このプロジェクトで是非協働したいとのことだった。並行して、地域のボランティアや学童保育、PTA や事業所に訪問をして、実際に地域の人材を受け入れ

るとすれば、どのような人材を求めるのかヒアリングした。7月に包括と生活支援コーディネーターで第1回目のミーティングを開催し、プロジェクトの概要の共有と、今後の進め方について検討を行った。生活支援コーディネーターからは地域へのおろし方についての助言があり、地域ごとの不公平感が生じないように、地域へのアナウンスは社協主催のささえあい会議のような場で告知する予定である。9月に生涯学習センターから、ワークショップの共同開催の提案を受け、10月に包括と生涯学習センター、生活支援コーディネーターでコアメンバー会議を行った。今後は、11月22日に長田生涯学習センターで good at プロジェクトとして名刺作りのイベント企画をしている。企画終了後はイベントの振り返りを行って、実際にどのようなアプローチが地域住民に対して必要か、どのような強みを持った人材がいるのかを分析して、来年度以降の本格的な取り組みにつなげていきたいと考えている。これは、ただ名刺を作るというイベントではなく、作った名刺が人材名簿の代わりになって、それを取りまとめる運営母体を作り、人材と使いたい団体とをマッチングするような作業をしていこうと考えている。このプロジェクトは事業概要1から4のすべてに関連していくものだと考えている。今後も住み慣れた地域で暮らし続けることができるように、長田地域の特性に応じた地域包括ケアシステムの構築に取り組んでいきたいと思う。

櫻井委員：

good at プロジェクトは大変良い取り組みだと思う。名刺を作るだけでなく、自分は何ができるのかを考えたり、マッチングをすることでやりがいにつながったりすると思う。マッチングするためのデータの整理なども、このプロジェクトに参加されている方たちがやるというイメージなのか。

包括：

今後本格的に実施するにあたっては、本部的な存在が必要だと考えており、自法人にも投げかけをしてみたほか、別の団体にも本部としての機能を担えるか打診をしているため、今後整理されていくと思う。せっかく名刺を作っても、その人材がどういう所においてどんな活動ができるのか、ということ把握できている人がいないと、活動につなげることができないので、この機能が今後確立していくようにしていきたい。地域の中で自走していくことを目指したいので、あくまでも包括ではなく、他の団体にまかせていく形で考えている。

<<丸子地域包括支援センター>>

包括：

事業概要1つ目の相談対応力向上を目指すについては、包括職員一人一人の相談対応力向上と、地域の介護支援専門員のスキルアップの支援や相談しやすい関係性の構築を図っていきたいと考えている。包括内では、日々の相談業務についてみんなで相談しながら対応している。支援困難ケースで介護支援専門員が関わっているケースについては、介護支

援専門員と顔を合わせて事例の共有を行い、支援の方向性の検討をしている。その他、同じ法人の4包括が月1回集まって合同のミーティングを開催している。この頃はzoomでの開催だが、相談援助に関する内容の講義を職員が順番に行う機会を設けて、定期的に実施している。また、地域の介護支援専門員の相談に対応するだけでなく、11月15日には長田包括と合同で障害支援関係者との勉強会を開催予定である。複雑なケースの支援も増えているなか、介護保険関係だけでなく、それ以外の支援者と一緒に支援することも増えているため、知識を増やすだけでなく、利用者を支援する介護支援専門員や事業所など他の事業とも連携しやすいようにと考え、現在準備を進めている。11月15日以外には、1月に高齢者虐待の勉強会、2月に介護支援専門員が支援で悩むグレーゾーン、相談援助に関する勉強会を開催予定で、現在準備をしている。

2つめの、高齢者の権利を守る取組みとして、高齢者の支援をするもの同士が共通の制度理解のもとで支援ができるように、関係する専門職を対象に、成年後見支援センターの方を講師に迎え、10月18日に勉強会を開催した。成年後見制度や日常生活自立支援事業という言葉も聞いていても、なかなか内容までわからないという話も聞いていたため、介護保険以外で高齢者と関わる専門職にも理解を深めてもらいたいと思い、包括職員と一緒に勉強する機会を持った。参加者は圏域の居宅介護支援事業所や介護保険のサービスの在宅系の事業所、薬局、委託で介護予防のサービス計画を作成してくれている圏域外の居宅支援事業所の合計79箇所へ案内をし、39名の方が参加をした。アンケートがまだ出揃っていないため最終の集計はできていないが、参加者からは制度の流れの理解ができてよかった、という意見が多くおおむね好評だった。また、高齢者の権利を守る取組みとして、包括から年4回程度発行している広報紙まるっと丸子便りにも成年後見制度に関する情報を載せている。S型デイサービスの利用者やスタッフ、民児協、介護支援専門員等にも配布し、高齢者の権利を守る取組みとして、情報発信を行った。

3つ目に、高齢者自ら介護予防に取り組めるよう支援することとして、1つ目はS型デイサービスやシニアクラブで介護予防の運動や講座の啓蒙活動を行っている。各S型デイサービスやシニアクラブには年1回から2回訪問しており、今年前半の訪問では、コロナ禍でここ1、2年、運動の機会が減った、外出をしなくなった、という相談を多く受けていたことから、昨年度にも引き続き、当センターの理学療法士が自宅でもできる運動等を行っている。先ほどの広報紙まるっと丸子便りにも運動のメニューを毎回2、3個載せている。自宅でもできる運動を複数載せており、できるだけ多くの方に届けるため当センターのホームページにも掲載している。最近の訪問では感染予防をテーマに話をしている。地域の高齢者が自ら健康増進に意識して介護予防に取り組めるよう、今後も継続する。また、地域の高齢者を対象に脳の健康度チェック、ファイブコグを昨年度分として5月13日と21日に開催した。ほぼ予定していた定員の方が参加して、脳の健康度チェックとともに介護予防の運動等を2日間に渡って実施した。5月には定員以上の申込みがあったため、今年度分として12月の2日間、12月6日と13日に開催予定である。現在、丸子圏域の自

治会の方に協力をいただきチラシを回覧しており、来月より募集開始予定。地域の高齢者が元気なうちから、健康なときから自分自身の体や頭の状態を知って、一人一人が自ら意識して取り組めるようにしていきたいと考えている。

4つ目は、認知症になっても住みやすい地域づくりとして、昨年度より長田西地域に提案していたチームオレンジ事業について、今年度、長田西民児協、長田西地区社協で実施することとなった。会場や日程の都合上、長田西民児協と地区社協とで別日程となったが、まずは長田西民児協では8月10日にサポーター養成講座、10月13日にステップアップ講座を実施した。長田西地区社協の開催は11月29日を予定しており、サポーター養成講座と、ステップアップ講座を同日開催とする。11月29日のステップアップ研修では、認知症の当事者の方からの話を予定している。会場も広いため、地区社協だけでなく、民児協からの再度の参加希望者や、長田西地区のちょこっとボランティアにも地域から声掛けをしていただいております、定員100名を予定している。現在、作成したチラシを各団体へ配布し、募集をかけている。今後開催に向けた打合せを行い、取り組んでいく予定である。

美尾委員：

事業概要の1のところ、長田包括と共同でケアマネと一緒に勉強会をしていると話があったが、同じ法人同士で協力して取組んでおり、大変効率的な方法で良い取り組みだと思ふ。同じ課題で取組むという目的もあると思ふが、地域の課題も似ているという認識でよいか。

包括：

中心市街地から離れた安倍川以西という意味では大体は似ているが、地域性としてはそれぞれだと思ふ。街の中、山の方、海の方で地域性が全く違うため、大きな目で見て長田包括とテーマを決めている。

地域性があることからケアマネ向けの研修は各包括で実施しているが、ケアマネが両圏域に跨って関わっていることもあるため、ケアマネの負担とならないよう、両圏域に共通する内容については数年前から合同で実施している。

櫻井委員：

高齢者の権利を守る取り組みで、79箇所のような様々な領域の方たちにお知らせを出して参加を募ったとあったが、大変良いと思ふ。事業所が単独で何かをしようとする、なかなか参加者も少なく呼ぶ方も限られてくるが、色々な方達に声をかけて参加者を募ったこのような取り組みというのは、広く参加者を募るだけでなく、活動が広がっていくと思ふ。また、参加者同士のネットワーク作りにもつながると思ふので、是非今後もこのような取り組みを続けていただきたい。

包括：

zoom開催という関係もあって参加しやすいと思ふ。メールに対応している事業所ばかりではないため、手渡しや郵送で案内を送付することは負担ではあるが、できるだけ多くの方に話を聞いていただきたい思ふもあるため、来年度もこのような形で継続していきたい

いと思う。

<<意見交換>>

【テーマ】台風 15 号（9 月 23 日～24 日）による大雨災害について

櫻井委員：

冒頭で課長の挨拶にもあったように、台風 15 号（9 月 23 日～24 日）による大雨災害により、駿河区でも浸水、土砂崩れ、停電、断水等の被害が出た。各包括でそれぞれどのような状況でどんな被害があったのか、対応や支援、今後の課題があれば報告をお願いします。

大谷久能包括：

部分的には土砂災害や浸水被害があったが、特にそれについての相談というものはなかった。狭い地域のため、包括である程度高齢者宅を把握しており、包括から様子確認という形で電話連絡をした。その中で、「あのお宅の裏が崩れたため様子を見に行ってほしい。」という声があり、包括で圏域内を回り、崩れている所があればお宅に訪問する形をとった。ニュースで取り上げられないところが非常に多く、圏域外のケアマネの場合、担当する家が被害を受けているという認識に至らないのではないかと考え、包括が把握している限りのケアマネには連絡し、利用者の家の状況を伝え、ケアマネにも見に行ってください、情報を共有していくような形をとった。また、みまもりたい 10 周年という地区ということもあり、久能地区で土砂が多かった場所では、独居の家の前などを地域の方が協力して掃除してくれており、特に包括が動いたということはない。

大里中島包括：

1 件だけ市議会議員から上がってきたケースがある。中島にお住まいの 82 歳の高齢女性と 50 代の無職の息子さん 2 人暮らしの方が、集合住宅 1 階で浸水し、その集合住宅の 2 階に避難した際、2 階の住民たちがお母さんの姿を見て心配し相談があったケースである。住民から市議会議員に話が行き、そこから包括へ連絡があった。包括がすぐに向かったが、自宅の浸水により生活ができなため、近くの中島浜公民館の一室を借りて避難していたという状況であった。後々入ってきた情報では、社協の駿河区推進センターがボランティアで片付けや移動を手伝ったとのことだった。その方は、1、2 週間、中島浜公民館で過ごして、今は中島の市営団地 1 階の使われていない空室に一時的に入れたが、最終的には被災した家に戻る形になっている。個別ケースはこれのみだが、8050 問題も含めて、経済的に苦しそうなところが見えてきた。また、大里中島地区は国道 150 号線を挟んで満潮時に河川が氾濫しやすい地域ではあるが、今回は河川の氾濫は無かった。雨水の処理が追い付かないことによる浸水については、地域も慣れていて浸水しやすい場所を把握しているため、処理ができたようである。

当包括はエン・フレンテという施設内にあり、停電も予想されたが、実際に職場へ来てみると、目の前の信号は消えているものの、建物は浸水、断水、停電もない状況であった。

このように、被害状況がまだらで全容が見えにくいといった状況であった。

八幡山包括：

こちらではほぼ被害がなかった。団地と、南町の一部で床下浸水をしたようであるが、土砂崩れが懸念された八幡山も全く被害が無い状態で、包括に対し助けを求める話もなかった。

小鹿豊田包括：

包括へ直接被害の報告はないが、清水区に近い弥生町にお住まいの要支援の方から、自宅のあるアパートの駐車場が水没したが、事前に娘が迎えに来てくれていたので特に問題はなかった、という報告はあった。また、周りを茶畑に囲まれた国吉田のグループホームでは、施設裏にコンクリート擁壁があったにもかかわらず、水が壁を乗り越えて、敷地内に貯まり始めたため、施設内に水が入らないように対応したと、昨日のグループホームの運営推進会議内で報告があった。

部会の冒頭の課長挨拶で、被害があった地区として池田地区が挙がっていたが、支え合いの方々からはそのような話は一切出ておらず、どのようなルートで情報が上がっているのか不明である。包括としても外からの報告で初めて知るような状況であったため、今後話を聞く中で、実は、というものが出てくるかもしれない。各所から災害状況に関するアンケート等が来ているが、回答済みのアンケート内容が本当に正しかったのか懐疑的である。

大里高松包括：

24日に1件だけ利用者から電話があり、今停電したがこれはうちだけなのか、それとも周りも停電しているのか、という問い合わせだった。調べた結果から当該地区全体の停電だと伝え、併せて、近所の様子や頼りにできる方がいるか聞き取り、ブレーカー操作の仕方を説明した。また、連休明けの月曜日には直営の方と見守りで心配な方に連絡し、様子を伺っている。当地区では停電していた方が多く、12時間ぐらい停電したため食料が無くて大変だったという声が聞かれた。今後の備えや家族との連絡手段について改めて考えるよう、訪問時に包括職員から話をしている。登呂四丁目と五丁目、登呂遺跡の横のあたりは大分浸水したようで、直営の方でも床下浸水や床上浸水があったと聞く。土曜日に地区内を回っていると各通り沿いの住民が片づけをしており、浸水被害の状況がうかがえた。ただ、浸水したことについての相談や手伝ってほしいという相談は特になかった。社会福祉協議会の方が浸水地域を一軒一軒回った中で、浸水とは別に心配な家の相談もあり、そういった家の把握にもつながっていると思う。今後の課題だが、包括職員7人のうち市外から公共交通機関で通っている職員が3人おり、休日のみならず平日でも参集できなくなる可能性があるため、対応を考えていかなければならない。また、安否確認名簿を作成していたものの、月一回の更新ができていなかったため、今回をきっかけに、再度名前と地図をセットにしたファイルを用意し、職員全員が誰のことでもわかるようにすることとしている。

長田包括：

先程課長から被害状況の話があったが、直接包括には支援の要請や被害の報告はなく、無事だったという認識でいる。国道 150 号線沿いはどうしても土地が低いため、想定された通り浸水もあったが、助けてという相談も無かった。他には、デイサービス事業所で車両水没があり営業ができていないといった話を聞いた。包括直営の方でサービスが入らなくて困ったという話は聞いていないが、包括の隣にあるケアマネ事務所では対応に苦慮したようである。

丸子包括：

当圏域では、すべての状況が把握できているわけではなくて、断片的に情報が入ってきている状況であった。停電や断水は無いと聞いており、今回の災害に直結した相談は 0 件であった。話を聞いていくと一部浸水があった地域もあるようだが、そこまで大規模ではなく、また、山間部では土砂崩れの被害を受けた店舗もあったが、消防団などが協力して支援していったとのこと。いずれも後から聞いた状況である。支援の対応では、連休明けの月曜日、独居の直営の方に電話をかけて状況を把握し、皆大丈夫であった。今回のような大雨のあったときの課題だが、圏域外に職員がいるので、駆けつけられる職員が少数ということがある。加えて、土曜日の確認時には地域の状況がわからないということがあったため、地域の災害状況を集約している人や機関と繋がっていくことの必要性を感じた。

大里中島包括：

母体である社協より伝言を頼まれてきている。社協では市と連携し災害ボランティアをいち早く立ち上げたが、駿河区は清水区等と比べて被害状況がそれほど酷くなかったため、そろそろ豊む方向でいるとのこと。ただし、先ほどの報告のように、状況が落ち着いてくるに従って、孤立ケースや包括の支援が必要なケースが浮き彫りになってきているそうである。そのようなケースについて各包括に声をかけるので支援をお願いしたい。それから、片付けがまだ残っている家についても随時、個別にあたるようにするとのこと。駿河区推進センターに問い合わせただけであれば、すぐに手伝いに行けなくても、なんとか相談には乗るということを知っている。社協の方も被害のひどい清水の方に人員を割いており、直ぐに対応ということは難しいかもしれないが是非ご相談いただきたいとのこと。

櫻井委員：

今話があったように、対応が必要な場合には声掛けをしていただければと思う。